

# 令和4年度「学校図書館活用推進事業」実践報告

新潟市立新津第一小学校

## 1 新津第一小学校の児童の実態

### (1) 読書センターとして

低学年は毎日、中高学年は週1回、朝読書が位置付けられている。週1時間、全学級が図書館を利用できる割り当てがあるものの、感染症の流行や学習の遅れ等で、図書館での読書利用は減っている。また、読書に関するアンケートの結果、「本を読むのが好きだ」と答える児童が88%に対して、「子どもは読書の習慣を身に付けている」と答える保護者が52%（令和4年7月調査）という結果になっている。

### (2) 学習センター・情報センターとして

年間活用計画を参考に、学年学級担任が、司書に頼んで図書資料を集め、図書資料を活用した学習を活発に行っている。司書は、年間活用計画を見て、オレンジボックスや新潟市立図書館の貸し出しを確認して準備を迅速に行っている。たくさんの本が準備されても、本を選んだり、本の中から欲しい情報を見付けたりする技能をもつ児童はまだ少ないが、目的意識や相手意識をもたせた学習展開が行われているため、図書資料で情報収集を行い、発表資料を作成する経験は増えている。図書館が発信する場にも利用されてきている。上学年になるとネット検索も増えるが、まずは図書資料から情報収集を行う児童が多い。1回の貸出で3冊借りることができるため、様々なジャンルの本を借りて読み、学習に活用している。

## 2 「学校図書館活用推進事業」に向けての取組

児童の実態を踏まえ、学校図書館がもつ「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を一層高めるために、次のような実践や見直しを行った。

- (1) 学校図書館教育全体計画の見直し
- (2) 学校図書館活用年間計画（学年ごと）の見直し
- (3) 学校図書館の環境整備
- (4) 学校図書館を活用した授業の実施
- (5) 各校の図書館だよりによる情報交換（図書館掲示：右写真）



特に中学校区での連携を図るために、各校の司書と担当の司書教諭が一緒に集まれる日を決め、各校の図書館を訪問して部会を開いた。各校の図書館を実際に見ながら、各校の取組について情報交換を行い、探究活動の充実を図った環境整備を連携して取り組むことにした。

## 3 読書センターとしての機能の充実を目指して

### (1) 読書週間での取組（7月・11月）

#### 1 朝読書の実施

読書週間中は全学年が朝読書を行った。一日のはじまりを、静かに落ち着いて読書でスタートすることができ、朝読書を喜ぶ児童が多くいた。

#### 2 おすすめの本の紹介

教職員のおすすめする本を展示した。知っている先生や担任の先生の本を読みたがる児童が多く、展示された本の貸出数が増えた。また、中学生が書いてくれたおすすめの本の紹介文とその本を展示した。図書委員会や高学年の児童が、読んだ感想を付箋に書いて中学生に伝え、読書の交流を行った。



#### 3 親子読書の実施

- ・普段娘が学校でどんな本を読んでいるかが知れてよかったです。また、小さいころに読んだ絵本を改めて読めたのも楽しい時間でした。また、時間を見つけて親子で本を読めたらいいなと思います。（6年保護者）
- ・子供が大きくなってきてから、一緒に本を読む機会が減ってきている中、親子読書を通じて、感想等を話し合う時間がとても楽しかったです。（4年保護者）
- ・日常では、なかなか本に親しむ時間と余裕がありませんでしたが、学校全体で取り組むことで、本人にも意識の高まり（少ない時間でも本を読もうとする）が見られました。（1年保護者）

7月の読書週間の前に、親子読書の本選びの参考となるように、新潟市立図書館が作成した「うちどくブックリスト」を全児童に配付した。読書週間より長い2週間の中で、2回以上保護者ととも読書する機会がもてるように依頼した。

夏休みには、図書室で読書を楽しむ親子の姿が見られた。

#### 4 図書委員会による読書ビンゴ

様々な分野の本を読むことでビンゴとなり、「しおり」「カウンター体験券」「プラス1冊券」などの景品がもらえる。イベントをきっかけに普段読まない分類の本に触れることができるようにした。休み時間の図書館は、本を借りる児童であふれていた。

#### 5 地域ボランティアによる読み聞かせ

朝読書の時間に地域ボランティアが各教室へ出向いて読み聞かせを行った。児童が自分の教室の席で聞けるように、学級担任が大型テレビに絵本を映して、感染症対策を行った。

#### (2) シリーズはかせ賞・多読賞の表彰

シリーズは、約60種類ある。児童が自由に選んでカードに貼り、始めることができる。多読者へは100冊ごとに賞状が出る。低・中学年の児童は、積極的に取り組み、賞状をたくさん貰っている。選書が苦手な児童には、その子に合ったシリーズものをお勧めすると、選書で迷わず読書を楽しめるようになり、本好きになるきっかけにもなっていた。



### 4 学習センター・情報センターとしての機能の充実を目指して

#### (1) 「教科書おすすめの本」カードの作成

国語の教科書に紹介されている書名の一覧をカードにした。児童が本を選ぶときの参考にしたり、教科で学習した読みを深めたりすることをねらった。低学年では完読する児童もいた。

#### (2) 年間活用計画の見直し

(表2) 小学校における基本的な操作スキル

基本的な操作スキル	1年・2年	3年・4年	5年・6年
1 学習活動に必要なコンピュータやアプリケーションソフトの基本的な操作ができる	コンピュータの構成を知り、電源の投入・終了など基本的な操作ができる マウスなどによる操作を中心とした簡単なソフトウェアの起動・実行・終了ができる	ソフト(ワープロやプレゼンソフトなど)を使って、文字や画像を組み合わせて編集したり、印刷・出力したりできる	文字や画像、映像など異なる電子ファイル、インターネット上の素材などをソフトウェアに取り込んで編集する経験を持つ 収集したデータを表にまとめたりグラフ化したりして出力できる
2 10分間に200文字程度の文字入力ができる		タッチタイプで自分の名前や短い文章を入力できる。また、自分の考えを文章にまとめることができる	10分間に100文字～200文字程度の文字を入力できる
3 電子ファイルを整理して適切な場所に保存できる		作成したファイルに名前を付けて指定された場所に保存できる	階層を意識してフォルダを作成し、種類や内容に応じて適切な場所に電子ファイルを整理・保存できる
4 情報機器で収集した情報を報告や発表に利用できる	自分で描いた絵やデジカメで撮影した写真を使って発表する経験を持つ	写真や絵と文字を組み合わせてプレゼンテーションのスライドを作成し、調べたことや考えたことを発表できる	写真や絵と文字を組み合わせてプレゼンテーションのスライドを作成し、調べたことや考えたことを発表できる
5 インターネットの閲覧や電子メールの送受信ができる		複数のキーワードを組み合わせて目的のWebページを検索したり、電子メールのルールやマナーを理解して、情報交換をしたりする経験を持つ	ブラウザやメールソフトの使い方のルールやマナーを理解し、情報の検索やコミュニケーションに活用できる

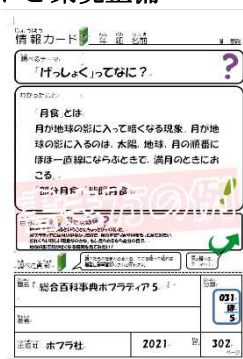
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryo/attach/1249670.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryo/attach/1249670.htm)

文部科学省「教育の情報化に関する手引き」第4章情報教育

上記の資料を参考に、各学年の年間活用計画に指導するとよい情報活用に必要なタブレットの基本スキルを加えた。また、国語科の学習内容を光村図書のものに書き換えた。教師が見通しをもって図書資料を活用した学習が展開できるようにするとともに、児童が情報活用能力を身に付けながら学習を進めていけるように見直した。(別紙参照)

#### (3) 探究的な学習を支える情報カードと環境整備

図書資料やネット検索で調べたことをメモするための情報カードを用意した。出典やURL分かったこと、もっと知りたいことなどをメモするカードである。そして、その情報カードを活用してまとめたレポートの例を掲示した。夏休みの自由研究や国語や総合的な学習の時間などの学習に利用されていた。



#### (4) 全学級で図書資料を活用した授業実践と各学年で図書資料を活用した授業実践の記録

各学年の取組を1実践ずつA4(別紙参照)にまとめて提出してもらったが、様々な教科等の学習で図書資料を活用した授業がどの学年学級でも行われていた。国語、生活科、社会、総合的な学習の時間で利用されることが多かった。平均して各学年3～5回ぐらい、司書に依頼をして図

書資料を準備してもらい、図書資料を活用した学習を行っていた。

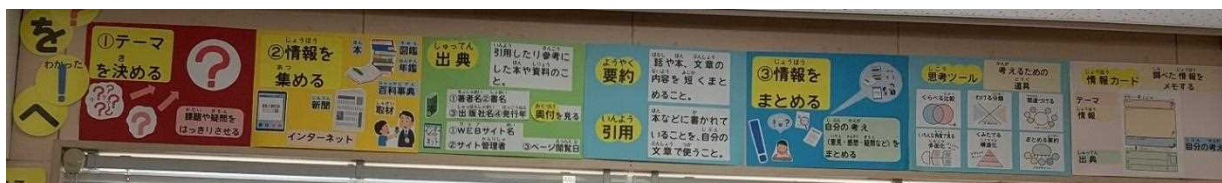
### (5) 担任と司書の連携による授業の実施

(指導内容)

- ・分類番号と必要な図書資料の探し方
- ・百科事典の使い方（目次と索引の引き方）
- ・レポートの書き方
- ・必要な情報の要約の仕方
- ・出典，引用，著作権
- ・情報カードの使い方（図書資料とネット検索）
- ・本の帯やポップの作り方
- ・探究活動の手順と方法



担任から学習のねらいや指導内容について話を聞き、司書が選書をして本を準備したり、プレゼンテーションを作成して児童に説明をしたり、指導の補助をしたりした。



年間活用計画やこれまでの実践の記録、学級担任の話から、必要と考えられる本を計画的に購入しているため、学習によく利用される本が学校図書館に整備されてきている。司書に依頼すると、すぐに必要な図書資料を集めてもらえるため、また、学校図書館へ行けばすぐに見つかるため、探究活動で図書資料がよく利用されている。

### (6) 秋葉区にまつわる本や冊子の紹介コーナーの設置

総合的な学習の時間等の学習でよく活用されている。単元学習が必要な場合は、ブックトラックに図書資料を集めて学年貸出を行っているが、紹介コーナーを設置したことで探しやすいくなり、休み時間にも利用されるようになった。



## 5 今年度の取組を終えて

### 【成果】

- ・これまで新津第一小学校が進めてきた取組を基本に、年度当初に作成した全体計画を指針として、中学校区で情報交換を行い、特に「学習センター」「情報センター」としての改善や充実を図ることができた。調べ学習の進め方や情報カードの活用について、掲示物を作成して指導を行ったため、子供たちも図書資料のよさを知り、活用方法を学んで、図書館や図書資料を活用できるようになってきている。
- ・「教科書おすすめの本」「シリーズ本」カードを作成し、新潟市図書館作成の「うちどくブックリスト」を配付したことで、児童はこれらのカードを見ながら選書に活用していた。
- ・年度当初にオレンジBOXの活用例を紹介した。公共図書館の本も活用し、図書資料の提供を迅速に行ったり、本の専門家である司書と図書資料や情報活用などについてチーム・ティーチングをしたりして、「学習センター」「情報センター」としての機能をより充実させることができた。
- ・タブレットを含めた情報活用、探究学習について、中学校区で情報交換を行い、小学校でどのような指導をして中学校へ繋げていくのかを決め、図書館の環境整備と学習指導を行うことができた。

### 【課題】

- ・親子読書により、保護者は親子読書を楽しみ、読書はとても大切であると感じている。だが、「子どもは読書の習慣を身に付けている」と答える保護者の割合は残念ながら低いままであった。家庭での読書の時間を確保する工夫が必要である。
- ・300冊ほど本を借りる児童がいる一方、本を読むのはあまり好きではないという児童や年間の貸出冊数が50冊に満たない児童もいた。学校では朝読書がなくなりタブレットが配付され、家庭ではテレビやゲーム、スマホ、習い事など、様々な環境の変化が要因となって、読書に費やす時間が奪われている。これまでの取組を継続しながら、児童や保護者に向けて読書の意義や効果を伝えたり、イベントを通して読書の面白さを伝えたりして、読書への関心を高めていかななくてはならない。
- ・学習に有効な書籍、人気のある本について情報を集め、できるだけ多くの児童が本を手にすることができるよう、これからも選書と購入についてよく考えて行っていく。